

こごみ日和

97号



食の循環

『#たべるめぐるホテル』の未来

都ホテル 京都八条

多様な人々との交流を通して
地球環境を考えるきっかけに

一般財団法人 京都ユースホステル協会

着物帯を華やかにアップサイクル

京都光華女子大学 学生レポート

なごみ日和「ふるさとの自然を守りたい」

もっぺん物語「カメラの大川」

川の清掃活動で、
生き物も人もつながって

岩倉川を守る会

Upcycle!

役目を終えたヨットの帆を
西陣織に使われてきた金糸で
「金継ぎ」を施した
バッグやイヤリング

sAto



表紙デザイン
嵯峨美術大学デザイン学科
竹内デザインゼミ
石川涼雅 / 上野日向 / 松本愛純

食の循環 『#たべるめぐるホテル』 の未来

都ホテル 京都八条

玄関前のコンポスター



都ホテル 京都八条（以下、都ホテル）は、レストランで出る野菜くずの一部を堆肥化（コンポスト）し、それを活かしてハーブやエディブルフラワーを栽培している。さらにそれらを使用したカフェメニューを提供し、「食の循環」というSDGs達成に向けた第一歩を踏み出している。

ホテルでも食品ロス削減出来るはず

都ホテルで長年愛されているブッフェレストランでは、卓上に美味しそうな料理がたくさん並んでいる。「食べたいものを食べたいだけ」食べられるのがブッフェの魅力だ。しかし一方で、食品ロスも出てしまう。食品ロスを減らすために提供量を減らすと、サービスの質も下げてしまうの

ではないか。ホテルでの食品ロスは、必要悪として考えられている一面があった。多くの食品が廃棄されることに対して、仕方ないと思っている意識を変えることはできないか。ホテルにも出来ることがあるはず！そう考え動いたのが、マーケティング部の小城さんだった。

高校生と共に「食の循環」の第一歩を踏み出した

小城さんは「コンポストを導入してみたい」と思い立ったが、コンポストに関しては素人。コンポストとは生ごみを微生物の力で分解・堆肥化するもので、生ごみの活用方法として注目されている。これをホテルの運営に取り入れるには、どうすればいいのか…。そこで、以前からメニュー開発で繋がりのあった京都府立農芸高等学校（以下、農芸高校）にアドバイスを求めた。農芸高校には専門的な技術を学べる学科・コースが設置されている。今回、協力をしてくれたのは「園芸技術科草花コース」。ホテルに設置するコンポストにはいくつかの条件があった。その中でも特に重要なのが、「臭いがしないこと」・「安全で衛生的であること」だった。コンポスター（容器）の制作には



農芸校生からアドバイスを受ける小城さん

「造園コース」が協力してくれた。

度重なる試行錯誤の末、2022年8月にコンポスターをホテル玄関に設置。コンポストの堆肥を使ってのハーブ栽培にも挑戦した。農芸高校で苗を栽培する過程でも、ホテルの野菜くずの一部からできた堆肥が使われている。「食の循環」が動き始めた。

しかし、このハーブ栽培でも、いくつかの困難にぶつかった。生育環境の違いが影響し、予想をはるかに超える虫被害に遭ってしまったのだ。農芸高校があるのは南丹の広大な土地。一方都ホテルは、夜も煌々と灯りが灯る街中。本来虫が付きにくいハーブが、こんなに虫に食べられるとは思っていなかった。当初はお客様の目にも届きやすいブッフェレストランのテラス席で栽培していたが、現在は屋上に移動させ、すくすくと育てている。



屋上のハーブ

ホテル全体の協力があるからこそ



2Kg分の葉物野菜を乾燥したものを

コンポストに生ごみを投入する前には、いくつかの工程がある。厨房で出た生ごみをそのままコンポストに入れてしまうと、臭いの原因になるだけでなく、発酵速度も落ちてしまう。まず、食材の中で葉物野菜だけをよ

り分け、細かく切って乾燥させる。

厨房スタッフの理解と協力があるからこそ、安全で衛生的にコンポストを継続できている。実際の堆肥を触らせてもらったが、茶葉のような芳醇な香りがした。

コンポストを続けるには、たくさんの人の理解と協力が必要だ。農芸高校の生徒や先生。ハーブ栽培では庭園スタッフ。そして、お客様と接するホテルスタッフ。玄関ではお客様に積極的に声を掛け、コンポストの魅力を伝える。このように、「#たべるめぐるホテル」の取組でホテルが一丸となって小さな循環型社会を目指している。

SDGs達成に向けた意識の変化が生まれた

少しずつではあるが、取組を通して一人一人の意識に変化が生まれた。「スーパーで手前どりをするようになった」「今まで持っていなかったけどエコバッグを持つようになった」など、日常生活で食品ロスなどを意識するようになった人や、家でコンポストを始めた人もいた。また、ブッフェレストランでは「一度に食べきれぬ量を何度でも」と呼びかけるPOPを作成した。

お客様の共感と理解も原動力

お客様の反応も原動力の一つだ。玄関のコンポストに興味を持ってくださる方も多い。ダイニングカフェでは、育てたハーブやエディブルフラワーを使用したハーブティーやケーキを注文してくださる方もいる。コンポストの取組

ホテルから出る生ごみの全量に比べると、コンポストに投入している量はまだまだ一部だ。しかし、一人一人の意識の変化は、なによりも大きな一歩である。着実にSDGsの輪は広がっている。



料飲部長の鶴飼 和成さんとマーケティング部の小城 恵さん

を知った上で、共感してくださるお客様も増えてきている。「食べたいものを食べたいだけ」というのがコンセプトのブッフェでも、食品ロス削減に共感してくれるお客様はいる。「食べ放題だから仕方ない」と思っていた食品ロスの削減に向けて、一人一人ができることを考えている。

人・地域とつながるホテルを目指して

都ホテルが京都市南区で開業してから、2025年で50年を迎える。歴史の中でホテルの在り方も変化してきた。これからは、今まで以上に支えてくれた地域や環境に感謝を伝えていきたい。そのために、今回の「食の循環」の取組は大きな意義をもつと考えている。

最後に、お二人に継続のための想いを伺った。
鶴飼さん：「未来を担う若者のひたむきな姿に感化されたんです。真剣に食や環境のことを考えている姿には大きなパワーをもらいました。彼らの素晴らしい活動を広めていきたいという想いも僕の大きな原動力です」。

小城さん：「いろんなコンセプトのホテルが増える中、都ホテルができることは何かを考えた時、地域への恩返し、これまでのそして未来のお客様への恩返しをしていきたい、手を繋いでいきたいと思いました。京都が好きで、京都の土地や人と繋がりたいと思う皆様に選んでもらえるホ

テルになりたいです」。

2022年冬からは「#めぐるめぐるホテル」と名付けた、西玄関前での花壇の運用も始めた。花壇の土には、コンポストの堆肥が使われ、庭園スタッフが農芸校生から花の苗のバトンを受け取り、季節ごとに花の寄せ植えを育てている。植え替え作業は、年4回農芸校生がホテルを訪れホテルスタッフとともに行っている。2023年秋以降はホテル正面玄関にも花壇を増設予定。訪れる人の目を楽しませてくれるはずだ。



総支配人の上野加代子さん（前列中央）と農芸校生が植え替えた花壇

都ホテル 京都八条

〒601-8412 京都府京都市南区西九条院町17（京都駅八条口）
TEL：075-661-7111 FAX：075-661-7135 URL：https://www.miyakohotels.ne.jp/kyoto-hachijo/





部屋はごくシンプルに 多様な人々との交流を通して 地球環境を考えるきっかけに



京都ユースホステル協会 事業部長 勢力清美さん

一般財団法人 京都ユースホステル協会

ユースホステルは100年以上前にドイツで生まれた。小中学校のある先生が、工業化に伴う大気汚染や急速な生活環境の変化で元気のなかった当時の子どもたちを、郊外の森の中に連れ出して授業をしたところ健康を取り戻したことから、宿泊旅行を企画してみたものの、当時は適した宿がなかったことがきっかけで作られた。

SDGsが謳われる以前からサステナブルな運営を心がけてきたユースホステル。現在、約80の国と地域に約3000か所、日本には約140か所の宿泊施設がある。その一つであり、当会議会員の「一般財団法人 京都ユースホステル協会」を訪ねた。

部屋は最低限必要なものだけ 共有スペースで交流ができる

ユースホステルには、その由来から国際ユースホステル連盟で決められた明確な目的*があり、青少年の育成に努めサステナブルな運営をしようという動きがある。自己管理を学ぶという教育的な一面があり、シーツはセルフサービス。自分で敷いて使用後は自分で所定の位置に戻すというシステムだ。事業部長の勢力清美さんに、ホテルとの違いについて伺った。「最近ではゲストハウスなどでよく見られるようになりましたが、タオルやアメニティは基本的にはご持参いただき、それが難しい場合は有料でレンタルしていただけます。そもそもサステナブルで環境に配慮した施設であると言えます」と勢力さんは語る。

「日本のユースホステルには、一般財団法人日本ユースホステル協会直営の施設、民営の施設、そして、我々のような自治

体が設置した公営の施設と3つのパターンがあります。弊団体が運営しているのは、天橋立ユースホステルと宇多野ユースホステルの2か所。天橋立は宮津市が、宇多野は京都市が設置したものです。ホテル等との大きな違いは、ほかのお客様との垣根が低いところです。例えば、食事はお部屋ではなく、持参しても作ったとしても『食堂』で召し上がっていただくようお願いしています。セルフキッチンでは様々な国の人がいろいろなものを作っていますが、「その料理はなに？」と聞き合ったり、海外の方が味噌汁を作っていたら日本人がアドバイスしていたり楽しそうです。お部屋はシンプルにしており、宿泊のみなさんはお部屋の中に籠るより共有スペースに出てきて、世代や国籍などの違いを越えて交流できるのがユースホステル一番の特徴だと思います。



ユースホステルの目的

ユースホステルは、世界各国の青少年に、自然の偉大さを知り、自然を愛護し、自然を保護することを薦めるとともに、世界各地の町や村の持つ文化的価値を認識させることによって、青少年の教育を促進することを目的としている。このため、人種、国籍、皮膚の色、宗教、性別、階級、並びに政治的信条による差別をしないホステル等の宿泊施設を整備する。そして、青少年がホステルに泊まることによって、国の内外を問わず、お互いに仲間としてよりよい相互の理解を深めることを助長する。

(一般財団法人日本ユースホステル協会公式サイトより抜粋)

京北の北山杉でできたベッドとロッカー

宇多野ユースホステルは、建て替えをして2008年にリニューアルオープンした。木がふんだんに使われた瓦葺の屋根の建物。全国的に見ても珍しい施設だ。「建物自体も町家風に作られていて、夏は暑く冬は寒い京町家を体験できますよ」と勢力さんはほがらかに笑う。館内はガラス面が多く明るい日差しを取り入れているので、開放的な印象だ。

部屋を実際に見学させてもらうと、建て替えから10数年経っているにも関わらず杉の香りがして癒される。ユースホステルといえば簡易的な二段ベッドが置いてある印象のため、重厚感

のある北山杉のベッドはかなり珍しい。「この京町家風の建物が評判で、海外の建築学科の学生さんが見学に来られることもありすごく驚かれます。『京都に来たなあ』という実感を持って宿泊していただけるのも利点かと思っています」と勢力さん。



海外には冷暖房効率を考慮した施設も

先進国ドイツのあるユースホステルでは、食材は半径数キロ以内で収穫したものを使用し環境に負荷をかけない運営をしている。また、オーストラリアには効率よく風を取り込める方向

に建物を建設することでエネルギー効率をUpさせている所もある。日本を含めたユースホステル全体として、サステナブルホスティングを通じて世界を変えたいと考えている。

環境問題や世界平和へのきっかけに

宇多野ユースホステルとしては、他府県や海外には知られているが京都市民の認知が低いことが長らく課題としてあった。しかし、コロナ禍に入り、BBQエリアの無料貸し出しや、焚き火を囲む「焚火庵」というプログラムを通して、口コミで市民の来訪が増えてきた。「焚き火は木材を燃やすため環境に悪いのではないかと考えられますが、実は、これも循環です。京都市の花背から間伐材を入れていただいて使用しています。安い輸入の薪を使うのではなく、日本の間伐材を使用することで、小さいながらも資源循環に貢献できればと考えています」とあらゆる面で循環を意識して活動しておられるようだ。「焚火庵」は自然活動を広める団体が企画したもので、薪割りから体験できる。ほかにも「ステップアップキャンプ」という、キャンプ初心者向けのワークショップも人気だ。活動を通して森林環境に目が向けばと考える。「学校団体の受入もたくさんしています。ただ宿泊するだけでなく、他の団体や地元の人たちとも交わる。海外のグループとも交流できる。ここで交流を経験した人が、今度は世界に目を向け羽ばたいてほしい。お金を使うことだけが旅ではありません。安くてもこれだけ楽しく世界が広がります」と語る勢力さん、実は学生時代はあまり旅の経験がなかったそう。大人になって、一人旅をするようになってユースホステルの醍醐味を知ったそうだ。

「旅人と交流することで物の見方や考え方がお互いにわかり、理解が深まります。昨今、京都で観光客による観光公害が深刻ですが、先入観があるとバリアができ一生わかりあえない。交流して知ることで、お互いに気持ち解れたらいいんじゃないかなど。かつよく言い過ぎかもしれませんが、そんな風に思っています」。地域の人や他の団体と関わりながら多様なイベントをしている勢力さん。ユースホステルを通してグローバルな視点を育み、それが環境問題に意識を向けるきっかけとなればと語る笑顔に、明るい未来の兆しを感じた。



一般財団法人 京都ユースホステル協会

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町29 京都市宇多野ユースホステル内

TEL : 075-462-2312 FAX : 075-462-2289 URL : <https://www.yh-kyoto.or.jp> mail : kyh@yh-kyoto.or.jp



Hand in Hand

タンスに眠る着物帯を華やかにアップサイクル ～和から洋へ～

活動のきっかけ

近年、着物は非日常を楽しむ際に着られる物となり、着用機会が減少している。また、保有するが着用しなくなり、タンスに保管されたままという家庭も多いのではないだろうか。経済産業省のアンケート結果によると20～30代は着用意思があるが、約5割が保有していない。一方50代は、着物保有者が約8割いるが、20～30代に比べて着用意思が低くなっている。この結果から、着物を保有していても着用機会が減りタンスに眠ったままとなる。譲り先が無ければいずれ廃棄の道を選ぶことになるのではないだろうか。

今回、着物・和装小物の販売を行う「ときめき処きもの^{わか}和奏（以下、きもの和奏）」のお声かけにより、京都光華女子大学キャリア形成学部の3名の学生がきもの和奏の店舗で在庫となっている着物帯をアップサイクルするプロジェクトを行った。

帯のアップサイクル商品企画

筆者が企画したのは、付け襟である。付け襟は、装着するだけでコーディネートが華やかにできることから、人気のファッションアイテムである。筆者が祖母の服装を見て、簡単にファッション



企画した付け襟

を楽しむものがあればと思った経験がもとになっている。また、着物の保有率が高い50代以上の方に、着物帯の新しい使い方を提案したいと思い制作した。加えて20～30代の方には、付け襟が人気のファッションアイテムであることから受け入れやすく、着物帯のアップサイクル商品として魅力的な提案になると考えた。

付け襟制作の工夫

試作を進めると、付け襟の一部が首に当たり付け心地が悪くなるのが分かり、サイズを調整し何度もやり直し制作した。デザインは、「和から洋へ」を表現するため、ボタンの柄やリボンの長さにもこだわった。また、様々なコーディネートに合わせられるように表裏異なる柄のリバーシ

ブルになっている。さらに、付け襟のどの場所に模様を配置すると良いのかなど、試行錯誤を繰り返し納得のいく商品を作り上げた。



制作の風景

お客様の声

2023年3月25、27日の2日間、京都河原町御池にあるQUESTIONで、きもの和奏と学生による着物帯アップサイクル商品の展示販売「小さな着物屋さん^{ちいさな}と大学生の帯咲くマルシェ」を開催した。会場では、学生メンバー3人が着物を着用しお客様を出迎え、商品説明を行った。お客様に、アップサイクル商品の素材や本企画に興味を持って頂けたことが、自分自身の自信へ繋がった。



「帯咲くマルシェ」当日の様子

活動を通して

「和から洋へ」、着物帯を付け襟という新しいアイテムに生まれ変わらせることは、着物帯の有効活用に繋がると可能性を感じた。また、受け繋がれてきた文化を新しい形で次の時代へ繋げるために、着物帯の魅力を活かしつつ現代の生活に合わせた商品提案が必要であるとも考えている。タンスに眠る着物帯をアップサイクルすることで新たな用途が生まれ、もう一度楽しめることを多くの人に伝えたいと思う。

参考資料

・経済産業省繊維課 事務局からの報告（アンケート調査結果）、2015年5月19日（閲覧日2023年8月13日）
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/004_03_00.pdf

京都光華女子大学 キャリア形成学部キャリア形成学科 村上穂佳

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第39回 「ふるさとの自然を守りたい」 ●●

みなさんにとって「心のふるさと」といえる場所がありますか？そんな場所がなくなったとしたら…。子どもの頃遊んだ小さな森、美しい川辺、自分にとって当たり前存在していた光景が永遠に変わらないとはいえません。

京都府宇治田原町、緑茶発祥の地として知られ、茶畑の広がる自然豊かな町です。そんな町の静かな住宅街に突然姿を現し、話題となったグラフィティアートがあります。2020年1月にヘリコプターの墜落事故で亡くなったNBAを代表するコービー・ブライアント選手の絵。描いたのは宇治田原町出身のアーティスト 新井辰弥さん。その絵がきっかけとなり、町の店舗や施設

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京biz」、ラジオ「ファミリーレストランと海平和のめっちゃうま」などに出演。

には新井さんの絵があふれています。そんな新井さんが危惧しているのが、大好きな地元の自然が失われてしまうことです。幼い頃から何度も訪れているというお気に入りの場所は、数千万年前の地層が隆起してできたという場所でした。以前は断層がよく見え、貝殻や葉の化石がたくさんみつかったということでしたが、今はコンクリートなどで整備され、断層を見ることはできません。寂しさや不安を感じた新井さんは、「自然を残したい」というメッセージをこめたふるさと絵を多く描いていた頃もあったそうです。

世界へ活躍の場を広げつつある新井さんですが、自然あふれる、自分を育ててもらった「ふるさと」をこれからも大切にしたい、大好きな場所だと話します。そんな場所を守っていくために私たちは何ができるのか、考える必要があるようです。



人と物と。 織りなす「もっぺん」物語



第26回

カメラのことなら何でも！ カメラの大川

出町柳から賀茂大橋を渡った南西側、黄色いテントが目印のカメラの大川。地域に根差したお店は、今年で創業90年。京都の中で最も歴史のある老舗カメラ屋だ。3代目オーナーの大川眞さんが、優しい笑顔で迎えてくれた。

カメラは技術の進歩と共に変化を遂げ、今では誰でも手軽に楽しめるスマートフォンのカメラが主流だ。店内には様々な種類のカメラ、カメラ用フィルム、現像機器などが並ぶ。中でも一際目を引いたのは、フィルムカメラ。フィルムカメラと言えば、祖父母世代から受け継ぐ方も多く、見た目の美しさや、現像した時の風合いの良さから需要も高いという。しかし、年代物のカメラとなればメンテナンスが付きもの。最近は購入から5年以上経過したものは、メーカーが修理を受け付けないケースも多い。カメラの大川では、販売だけではなく、確かな技術を持った修理業者への仲介役も担ってくれる。「本当に腕の良い職人は、足りない部品は自分で作ってしまうんですよ！」と、大川さん。そんな腕利き職人の数も年々減っていて、京都にも指折り数える程しかないそう。



オーナーの大川眞さん

カメラの大川では、傷みが目立つ古い写真の復元も手掛ける。店内には、大川さんの手によって復元された昭和30年代の出町商店街周辺の写真が飾られている。「大切な思い出を写真と共に受け継いでいって欲しい」と、大川さん。懐かしい記憶や思い出を写真にして、家に飾って楽しむのもおすすめだ。

「カメラのことなら何でも！」と頼もしく語る大川さんの姿が印象的だった。

▶カメラの大川

〒602-0846 京都市上京区河原町今出川西入米屋町296番地

TEL：075-231-6797 営業時間：9:00～18:00、日・祝（9:00～17:00） 定休日：不定休 e-mail：mohkawa1@mail.goo.ne.jp

島藤真紀（2023年7月28日取材）

川の清掃活動で、 生き物も人もつながってきています

「再びホタルが繁殖できる川にしたい」

京都市左京区の岩倉地域を南北に流れる岩倉川は、岩倉盆地の長谷山を源流とし、上流部は「床もみじ」で有名な実相院、下流部は地下鉄の終着駅にある国際会館の横を流れ、上高野で高野川と合流しています。

地域のシンボルとも言える岩倉川の清掃活動を行うため、「岩倉川を守る会」は平成27年夏に結成されました。きっかけは、石座神社火祭りのあとの雑談で、「岩倉川が汚いなあ」という一言でした。50年前はホタルが飛び交う清流でしたが、川沿いの道が国際会館駅への通勤・通学路となり人の往来が増え、空き缶やプラスチック容器などのポイ捨ても多く、徐々に川は汚れていきました。「再びホタルが繁殖できる川にしたい」という思いで、有志9名の活動がはじまりました。



岩倉川の清掃風景

川の中を入念にチェックすると、 とんでもないものが捨ててある

活動はおおむね月1回で、今年で8年目になります。会員だけでなく、当日ボランティアも増えていて、今回取材に入った8月の活動日（第87回）も、炎天下にも関わらず、地元高校生5名を含む、24名の方が参加されました。林会長の自宅に朝9時に集合し、参加者は会長宅に保管されている清掃道具を持って各所に散らばり、10時まで川と川沿いのごみ拾いを行います。参加者の増加により、活動範囲も1.2kmから3kmに広がっています。

道の上からだと、あまりごみに気づきませんが、皆さん川の中に入って入念にごみをチェックされます。今回、自動車のバッテリーが捨



取材当日は、24名の方が活動に参加されました

てられていたことに驚きました。ピーク時の半分にごみが減ったという話でしたが、それでもたった1時間でごみ袋10袋分の成果がありました。

川がきれいになると、 自然も人も豊かになっていく

活動のモットーは「ゆるい活動」で、やる気とやる時間があり、できる範囲で参加してもらうこと。ただし、林会長だけは自宅が集合場所であるため休めません。それでも活動を続けられたのは、人のつながりが増えたことを挙げられていました。地元小学校の課外授業で活動の話をしたところ、5・6年生が毎回10名程度、自主的に活動に参加してくれるようになりました（今回は夏休みのため不参加）。また、活動開始当初は、不審な目で見られたこともありましたが、活動が認知されてくると、声をかけてくれる人も増えてきたそうです。

ホタルについては、一昨年の2021年から急激に増加し、飛び交っていた50年前と同じような状況になったということです。毎年生態調査をしていますが、今は多くて数を把握しきれなくなったそうです。また、ホタルだけでなく魚が増えたことにより、飛来する鳥の数や種類も多くなり、カワセミも見られるようになりました。ホタルの観察やバードウォッチングをする人も増え、子どもや親子が、魚釣りや川遊びをする光景も日常になっています。川がきれいになることで、生き物も人も集い、ますます豊かな場になっています。



地元小学校の課外授業で、活動の話をする林会長

岩倉川を守る会

活動日：月1回で、奇数月は第1日曜日、偶数月は第1土曜日の午前9～10時（9月と1月は休み）

場 所：林会長宅に集合（住所：左京区岩倉上蔵町76）

参加費：無料。ただし、会員になる場合は、年会費1,200円

吉田泰基（2023年8月5日取材）

『わたしのごみ減らし術』 ▶ 捨てずに活用 ポロ靴下

着なくなった衣類はフリマへ出してエコライフを実践されている方は多いのでは。でも、くたびれた下着類や靴下などは、ごみ袋へ。ちょっと待って！捨てずにハサミでザクザク10センチ四方位の小布を作りましょう。布の吸収力はスグレモノ。油で汚れたフライパンを拭いてみれば、すっきり。油吸い取りペーパーなどは不要。コンロまわりや汚れた皿にもぜひ。（北区 Mさん）